

## 1 話が聞けない子どもへの手立ての例

A 要因として、ADHD等注意集中に困難があり、環境の整備が必要なケース

環境刺激をできるだけ少なくする。  
無駄な音をカットする。  
掲示物を気を引かないものに換える。  
座席は、前や端など、できるだけ落ち着ける場所にする。

B 要因として、聴覚把持の弱さや音の選択性の弱さがあり、注意を引きつけることが必要なケース

話し始める前に、LD児に近寄り、肩に手を置いたりアイコンタクトを取ったりして注意を促す。

C 要因として、聴覚認知の弱さがあり、補助手段が必要なケース

板書する。図や表にする。手振り身振りを行うなどの視覚的援助をする。

D 要因として、PDDがあり、ことばの理解に対する援助が必要なケース

学習中注意がそれている場合、声かけ等により注意を向けさせ、ポイントを要約して伝える。  
課題の中に、その子の名前を入れたり、特に大事なところは名指しして注意を引く等の工夫をする。  
実物や実際の動作、写真・絵などをことばと結びつける。

E 要因として、短期記憶力に問題があり、聞く力を育てることが必要なケース

板書などの視覚的援助  
ポイントをメモさせる習慣  
分からないことは、必ず聞き返すように習慣づける。